福岡県水救会だより

福岡県水難救済会事務局　〒812－8577　福岡市博多区東公園７－７
県防災企画課内　（TEL）092－631－1416　（FAX）092－643－3117

水難救済会について

第七管区海上保安本部
本部長　木　田　祐　二

福岡県水難救済会は、大正十五年に日本水難救済会福岡県支部として発足以来、輝かしい救助実績を積み重ねてこられました。関係の皆様の長年にわたるご努力とご活躍に敬意を表します。

平成九年の組織改変により、全国組織の支部という位置づけから地方の独立組織へと移行しましたが、改変前から福岡県支部は全国的に見ても充実した組織と活動を誇っておりましたし、組織改変後もいち早く社団法人化を実現し、一層充実した活動を続けてこられました。このような活動の源は、大正十五年の発足以来続いている福岡県民の方々の海難救助に関する理解と熱意であろうと思います。

わが国は三万五千キロメートルに及ぶ海岸線を有し、六千八百余りの離島を抱える海洋国家です。ここでの海難に迅速に対応するためには、我々海上保安庁だけでは不十分で、海に関わる方々の協力が不可欠です。特に民間救助組織の中核として活動する福岡県水難救済会は、我々第七管区海上保安本部にとって頼もしい存在です。

高度成長の時代から人口減少社会、成熟社会へと移行しつつある我が国においては、国家機関と国民の協力関係・役割分担が大きな鍵を握りますが、海難救助はその性格が最も強い分野として古くから認識されており、福岡県水難救済会の存在意義は益々大きくなると思います。

福岡県水難救済会の益々の発展と、救難所員の方々の健康・安全を心から祈念します。

平成24年1月　関門・福岡地区合同洋上救急完熟訓練

福岡県水難救済会の皆さま ご安航とご活躍を祈念して

公益社団法人　日本水難救済会
理事長　向　田　昌　幸

福岡県水難救済会の皆さまにおかれましては、井手善来会長はじめ役員のリーダーシップの下、私ども日本水難救済会や全国の各地方水難救済会と心を一つにして、日頃から沿岸海域における水難救助活動に精励されておられますことに心から感謝しております。また、今年は、北部九州豪雨のせいで、福岡県内でも大変な被害が出たと承知しており、心からお見舞い申し上げる次第です。

さて、福岡県水難救済会の水難救済実績は、十月末までで二十一件の水難事案に対し二百六十九名の救難所員と七十隻の救助船が出動し、十二名の人命と十四隻の船舶を救助されています。こうした昼夜を分かつことのない救助活動が、多くの救難所員の皆さまの崇高なボランティア精神に支えられていることは、地元市民にも分かりにくいと存じますが、実に見事なご活躍であり、大変頼もしく思っています。そして、皆さまのご活躍を広く国民に知って頂き、ご理解とご支援を得ていく事こそ、皆さまの無償のご労苦に報いる本会の使命であると心得ています。

そこで当会では、「水難救済会」の知名度向上に力を入れています。先ず、海上保安庁に対し、各地の救難所に出動を要請した時は、単に「地元漁船出動」等の素っ気ない広報ではなく、必ず救難所名等を明記した広報を徹底するようにお願いしました。その結果、去る十月二十六日に沖縄・宮古島付近で遭難した米国籍ヨットの救助活動について、早速地元紙が「琉球水難救済会池間救難所（池間漁協）所属船にえい航されて救助」と報じてくれました。さらに私事ですが、講演やテレビ出演等を引き受ける際は、必ず青い羽根を着用し、「日本水救会理事長」と紹介して頂く事にしています。

そのほか、本会では海洋国日本の子供たちを対象にした「若者の水難救済ボランティア教室」にも力を入れています。本会の事業としては、着衣泳などの自己救命術を教えるだけではなく、先ず以て遭難者を救助する術から指導することの方が大切です。自己救命術はその一環だと考えています。福岡県水難救済会では今年も夏休みを前にした七月に、福岡と苅田の海上保安部署のご協力の下、四つの小中学校で開講されています。教育関係者や保護者の皆さんの理解を得て、臨海地域だけでなく内陸部の学校でも開講されることを期待しています。

これから冬場に向かい、海上も厳しい荒れ模様が続くことになると思いますが、水難救助に出動するときはもちろんですが、本業などで海に出られる際には、くれぐれも安全を第一に、今後とも皆さまが益々ご健勝でご活躍されますよう、本会職員一同、心から祈念しております。

夏休みを前に若者の水難救済ボランティア教室を開催しました

合言葉は「浮いて待て!!」授業の最後に大声で呼びかけました。

みんなが持ってるランドセルも浮くんだね
水中洗濯機で離岸流の恐ろしさも体験

小学1年生。洋服を着たまま
プールに入る事に戸惑います。

この教室は日本財団の助成によって平成１２年度に始まり、本年度で１３年を数えます。（１９年度以降から公益社団法人日本水難救済会の助成に変更）

平成２４年度は、福岡及び門司海上保安部並びにボランティア団体である福岡着衣泳会の協力を得て、福岡県内５カ所での開催を目標に取り組んでまいりましたが、７月１９日の北部九州豪雨により添田町の落合小学校は土砂災害に見舞われ、プールが使えなくなり止むなく中止となりました。その為以下４カ所（総勢７２２名）で海のシーズンを前に事故防止のため水難救済教室を開催しました。

開 催 日	参 加 生 徒 数	開 催 学 校	市　町　村
７月　５日	１０１名（中学１年生）	古賀東中学校	古賀市 筵 内
７月１３日	１８０名（小学４年生）	壱 岐 小学校	福岡市 西 区
７月１７日	４３ 名（小３～小６）	片 島 小学校	京都郡苅田町
７月１９日	３９８名（全 校 生 徒）	志免南小学校	糟屋郡志免町

宇島救難所から、宮城県水難救済会へ救助船を寄贈

平成２３年１１月、宮城県水難救済会から豊築漁協を通じて宇島救難所に救助船提供の要請があった。宇島救難所では、現在使用していない船があり先方の窮状を考えると、何とか力になりたいと考えたが、輸送経費等の負担を考えると簡単には行かなかった。そこで何とかならないかと豊前市に援助を求めたところ、市から協力の了解を得られた。宇島救難所では、救助長の高松三男さんが発起人となり、「是非こういう機会だから日頃の恩返しも含めて支援させて頂きたい。」と船外機（モーター）購入費として６０万円を負担することとし、船は長年宇島救難所員だった川上忠勝さんが提供し、船体の塗装は救難所員及び漁協の組合員がボランティアで行った。この度寄贈した救助船は総トン数１．４１トンで運送経費等を豊前市が負担し、１２月１５日に救助船が現地に到着し、ついにこの度の救助船贈呈が実現した。豊築漁協からはこの他にも４隻の漁船が贈呈された。

宇島救難所長は豊前市長の釜井健介氏であり、副救助長が豊築漁協組合長の吉田辰己氏です。

平成２３年３月１１日の東日本大震災により、宮城県水難救済会の各救難所はその施設及び救難用資器材のほとんどが流出する等の甚大な被害を受け、救難所員も落ち込み救難所全体が疲弊していたが、この度の救助船寄贈を受け「遠方にもかかわらず親身になって心配してもらい言葉にできないほど嬉しい。水救会一同、一日も早い水難救済活動の再開に向け、全力で復旧作業にあたって行く所存です。」と感謝の言葉が寄せられた。

宮城県水難救済会　閖上救難所に引渡

宇島救難所寄贈の船外機（モーター）

12月12日全ての準備が整い出発式

24年度青い羽根募金

２４年４月から２４年１１月現在で、皆様よりお寄せ頂いた募金額は、　一般募金が２，４６８，５１４円で支援自販機からの募金が１，５２８，３９１円　合計で３，９９６，９０５円となりました。
下記は内訳です。ご協力誠にありがとうございました。

個人寄付	５０，５００	賛助会員	７６，５６０
福岡県庁	２６９，９９３	県教育庁	４６，３５２
県警察本部	３１３，３０９	市町村	２０５，３３８
海上保安部	１６４，６２９	自衛隊	６４０，０００
消防（局）本部	２６８，３５５	会員その他	３６３，６２８

ご案内　九州看護福祉大学・短艇部が今年も

毎年のご協力に感謝状を贈呈しました

平成１７年	１２，７６６
平成１８年	１５，３２６
平成２０年	１４，８７３
平成２１年	９，３８３
ゆめタウン	２５，５５６
平成２２年	７，３１８
ゆめタウン	２２，６５８
平成２４年	８，４７０
合計	１１６，３５０

勉強と練習でお忙しい中ありがとうございます。

大牟田市内での街頭募金を行って下さいました。

看護の現場で必要なチームワークを養おうと１９９９年に創部されました。漕ぎ手１２人が６人づつ左右に並び、長さ４．３メートルの太いオールで水をかく別名カッター部。学校は熊本県玉名市の緑豊かな丘の上にあります。その為海での練習は休日のみで、平日はひたすら筋トレやランニングを行って身体を鍛えていらっしゃいます。条件に恵まれない中、創部３年目から全国大会に出場し平成２０年には優勝もされています。休日の練習にあてたい時間を割いてまで、募金活動にご協力頂きまして誠にありがとうございます。

海難救助出動報告

今年２４年の救助出動は船舶救助が１６件、人命救助が２８件です。全体で出動した救難所は４４救難所出動人員５２２名、出動船舶１３１隻実際に救助した人命は１６名でした。事故原因の中で一番多かったのが船上からの落水でした。海ではライフジャケットを着用しましょう!!
下記は、今年あった水難救助活動を２件事例として報告します。

浸水していたプレジャーボート。排水作業を行い加布里港に向けて曳航を行う。出動所員20名

３月８日午前３時３０分頃、船長より貨物船に衝突し怪我をしているという連絡が入る。柏原救難所長より１１名の所員へ発令後２隻の用船にて出港する。現場に着き救急車の要請をし、怪我をしていた船長を乗せ帰港する。船長を救急車へ受け渡した後、再び現場に戻り所員７名で大破した船を曳航する作業にかかった。近隣からも岩屋救難所から８名・船４隻、芦屋救難所から１名・船１隻が出動し、明かりを灯す等の救助活動にあたった。

９月１０日の早朝に漁協から船長が操業中に落水し、行方不明となっていると連絡がある。直ちに所員を召集し資器材を準備した後現場に向かう。現場海域に到着するが潮の流れは殆どない状態で水深も約３～４メートルと浅く、水温も高いため生存の可能性があると考えられた。東区奈多（アイランドシティ）付近の海岸で捜索を行う。姪浜周辺の救難所から１３救難所（内消防からの要請にて４救難所）２０５名、５３隻が救助にあたったが、出動から約６時間後遺体で発見された。

救難所の紹介

今回は福岡地区と北九州地区より
我が町自慢をしてもらいました!!

玄界島　救難所

玄界島は、博多港から北西約十八キロ、市営渡船で三十五分の博多湾口に位置しております。平成十七年三月二十日の福岡県西方沖地震では、家屋の七割が全半壊するなど、甚大な被害に見舞われましたが、県民をはじめとした全国各地の方々、行政の手厚い支援を受けまして、平成二十年五月、無事に復興事業が完了し、復興後は新築の家が並ぶニュータウンのような景観となりました。

一方、島の基幹産業は漁業で、資源豊かな玄界灘を漁場として、一本釣り、延縄、曳縄、刺網等の漁船漁業を中心にタイ、ブリ、フグ、サワラ、ヒラメといった魚種が豊富に水揚げされております。また、島の波止場付近では、アジ、クロ、スズキ等が釣れ、多くの釣り人を魅了し、夏場は「玄界島しまづくり推進協議会」が主催となって、玄界島産魚の直販市や漁船でのクルージング、サザエの掴み取り等のイベントを用意し、島の良さをＰＲしています。

玄界島救難所は、古くから海難事故出動では、幾多の功績を挙げる等、伝統ある救難所として、現在所長以下四十名（平均年齢三十五歳）その殆どが漁業に従事していることから、ひとたび海難事故出動の指令を受ければ、海に生きる者として、互いの救助精神に燃え、荒天時においても危険を顧みず、直ちに救助に向かう勇敢猛者の所員で構成されています。

また、所員は福岡市水上消防団の一員として、水難救助、防災思想に関する意識、技術向上を図る為、時化の日を利用して訓練を行い、万一の場合はその成果を十分に発揮し、小さな子供からお年寄りまで、安心して暮らせる島の守り人として活躍しているところです。

しかし、過去の東日本大震災大津波、七月の北部九州豪雨、年々巨大強力化する台風被害と、人の力では防ぎきれない大災害が起こっています。私達の住む島も、何時このような災害にあうかもわかりませんが、地域住民の助け合いも、被害を最小限に食い止める為、人ができる策であることを、福岡県西方沖地震で認識させられました。

これからも所員全員が一丸となって、地域或いは社会的に貢献できるよう頑張ってまいりたいと思っております。

築上町　救難所

大楠の前でコンサート開催

「築上町」は、平成十八年一月十日に「椎田町」と「築城町」の合併によって誕生しました。築上町は、福岡県東部、周防灘に面し、町の南部は殆どが山林で占められています。城井川をはじめとする多くの河川が、この森を源として流れ下り、北部の平野を潤して周防灘に注ぎます。町の北部を北西から南東にかけて国道十号と椎田道路が貫き、これらと交差して主要地方道や一般県道が整備され、北九州市や大分市などの地方中核都市と連絡しています。空の玄関である北九州空港まで二十キロ圏という恵まれた立地条件にあります。気候は瀬戸内海気候に属し、比較的温暖で地震や自然災害の少ない地域です。

町は豊かな自然と歴史にあふれた町として、年間を通して多くの方が訪れます。中でも樹齢千九百年を数える国の天然記念物「本庄の大楠」は、地域文化や長寿の象徴として多くの方に親しまれています。

築上町　訓練風景

秋には大楠の前にステージを設け、クラシックコンサートも開催されています。また神楽をはじめとした伝統文化の継承、振興にも力を入れており、町の新たな魅力の発信に取り組んでいます。築上町救難所は現在二十一名の所員で構成しており、迅速な救助活動に対応するため、毎年「海の日」に海難事故を想定した八津田漁港での救助訓練を行っております。これからも所員一同一致団結して、万一の海難事故に備えて万全を期していく覚悟であります。

事務局より・・・今回の「福岡県水救だより」第５号はいかがでしたでしょうか？
この便りの発行により、福岡県民の方に益々海への興味や関心を持って頂けたらと思います。
年２回の発行の際に「福岡のこんな良いところを載せて欲しい」など、どんどん地元の情報を提供して頂きたいと思っております。この便りは、毎回１，０００部程度発行し、多くの方々に目を通して頂いていますので、是非情報をお待ちしております。末筆ながら、制作にご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。
ありがとうございました。